



Zine@Tokugawa  
Iyeyasu

"Zine@" is a magazine that brings you to the Warring States Period.  
Thinking of the Warlords and make your own Original Zine!

## お話を聞いた人

佐賀県立名護屋城博物館  
学芸員・大橋正浩さん

入庁3年目。「一時期とはいえ、名護屋は20万人ほどが生活した大都市でした。そこで生活した人々の痕跡を是非探して見てください」



発行 / 2021年3月 佐賀県文化・スポーツ交流局 文化課  
佐賀市城内1丁目1番59号 ☎0952-25-7236

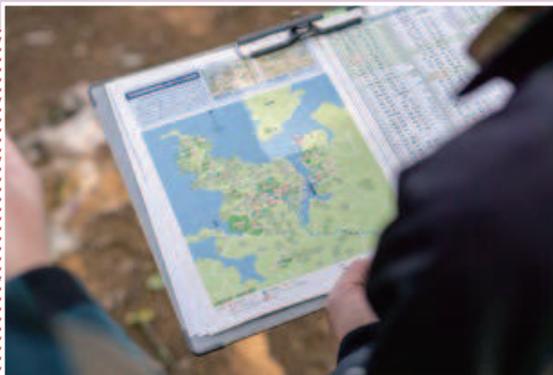
「はじまりの名護屋城。」ウェブサイト <https://hajimari-nagoya.jp/>



zine@ Tokugawa  
leyasu

「はじまりの名護屋城」ミニ  
刊行物zine@（じんあつ  
と）、第2号は学芸員の大橋  
さんに徳川家康別陣跡を案内  
してもらった。大橋さん、ど  
うしてこの陣の紹介を？

自分は調査研究担当として主  
にフィールドワークを行なっ  
ています。発掘調査結果をみ  
なさんに見てもらうように整  
備したり、報告書をまとめたり  
という仕事です。今日は建  
築史という観点から、徳川家  
康別陣跡を見てもらおうとお  
もいます。



伊達政宗と徳川家康の陣跡をめぐって

元々この陣跡は、徳川家康が最初に陣を構えた場所でした。ところが近隣の前田利家陣との間で水場を巡る争いが起こり、一触即発の事態になったところを、同じく近隣に陣を置いた伊達政宗が仲裁に入りました。その後、秀吉により名護屋城の近くに陣が移されましたが、家康自身は渡海せずに秀吉の補佐に徹したため、もとの陣は別陣として下屋敷や多くの家臣たちが駐留する場所として使われたようです。長屋状の建物や茶室、櫓などの建物跡が見つかっており、陣での生活の一端がうかがえます。このように二つ陣を持っていたのは、家康や政宗など主要な大名で、江戸時代後期の配陣図にも描かれています。配陣図は江戸時代後期以降に描かれたものばかりですが、豊臣家が滅んだ後の記録や伝承などを整理し研究が進んだものと思われる。

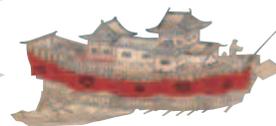


肥前名護屋城図屏風

名護屋城本城から 1.3km ほど離れるこの陣は、<sup>くるわ</sup>曲輪と呼ばれる区画が複数集まって構成されています。この陣には<sup>しもやしき</sup>下屋敷という別の言い方が配陣図にも記されているのですが、江戸時代における下屋敷は先代の殿様の隠居屋敷だったり、次代の若殿様が住まう場所だったり、家臣が駐留するための場所でした。また、遊興空間として使われた例もあり、この陣からは茶室の跡が出ています。もしかしたらこの場所で家康がお茶を嗜んでいたのかもしれませんが。また、同じ遊興空間でも能舞台は現在のところ確認できていません。今後の調査で見つかる可能性もあります。

## 要所の警備を任された、 家康への絶大な信頼。

海の突端には櫓台の跡が見受けられます。ここは海と川を監視するための、重要な場所だったと思われます。当時は今と違って、樹木もなかったので見晴らしもよかったのではないのでしょうか。新しく構えた陣も名護屋浦を挟んで向かい側なので2つの陣は、防衛上相当重要な場所に置かれたことになります。さらに周辺には本多忠勝や大久保忠世など秀吉の覚えもめでたい家康の重臣たちの陣も置かれていました。だから相当家康は信頼されていたんでしょね。それは実際に大陸に攻め込まずに、秀吉の近くに留め置いたということからも分かるかもしれません。逆に、この直前には九州攻略が行われていますので、島津などの九州勢の多くは実際に出兵をしました。そのあとの処遇も、大陸での働き次第みたいなのところがあったんでしょね。



# 在りし日の家康

このような陣跡の調査自体は数か年の計画を立てて、一つの陣跡あたり4～5年くらいの歳月をかけて行なっています。この徳川別陣跡自体はまだ正面入口の正確な位置なども分かっておらず、今後の調査が待たれるところです。これまでに調査した箇所は、露出による風化がないように、その表面を土で覆って保護している状態になります。建物跡などをわかりやすく見せようとする掘秀治陣跡みたいな整備をする方法もあります。そのような整備をすると見ごたえのあるものになると思いますが、今は想像力を働かせてこの場所でお茶を嗜んでいたかもしれない在りし日の家康の姿を楽しんでいただければ。陣跡自体にはいつでも入っていただけますので。

ここに15000人もいたとは考えにくいので普通の兵士はこの周りで野営をしていたような状態だったのかも。



Tokugawa  
Ieyasu



この井戸の、堀方の技術は当時も使われているので400年以上前から遺っている可能性はあります。もしそうならもつというんな人に見て欲しいですね。(現在は安全対策のため立入禁止)

ここは戦後に開拓された場所でもあるので、桃山時代当時のものや、近代のものが、混在して残る場所でもあります。



大橋さんから話を聞いたあと、昼食に名護屋城博物館近くのイカ割烹のお店へ。呼子といえばイカでしょう。ところが悪天候のため「本日はイカの活造りが入荷しておりません」天ぷらならできるといので、エビなど海鮮の天ぷらをいただく。そういえば俗説によると家康の死因は天ぷらの食べ過ぎだったような、、、と想いを巡らしているとお店の方が申し訳なさそうに「たった今、イカが入荷しましたがイカがなされますか？」うーん、残念ながら家康みたいに食べ過ぎになってしまうので、活造りは次回。まあタイミング次第でこれもまた、いつか。

